

## 【必要情報を満たせる手術記録の例】

この手術記録はあくまで1例であり各電子カルテや施設診療録基準に沿った記録で構いませんが手術である以上診療報酬を受けられ、かつ公的書類として集計や証拠となる情報が記載されていることが最低条件です。

### 手術記録

手術実施日：20××年○月×日

患者ID：XXXXXXXX

患者氏名：××× ×××

生年月日：19△△年 ○月 ×日 ( ■歳)

性別：男

病名：右前腕内シャント狭窄

術式：透視下 エコー下 シャントPTA

麻酔：局所 伝達 全身 0.5%キシロカイン 7ml

執刀医：○○ ○○○ / 助手：●● ●●●

手術時間：17分 (XX:30~XX:47)

出血：少量

シース：○○○ (製品名) 5Fr シース

ガイドワイヤー：○○○ (製品名) XXXX inch

PTAバルーン：○○○ (製品名) φ5 mm 4 cm

その他のデバイス 5.5Fr フォガティースルーメンカテーテル

2015年5月右内シャント作製。3ヶ月毎PTA

術前エコー検査にてFVm331ml/m RI 0.69であった。

局所麻酔下 上腕橈測皮静脈より逆行性に上記シース挿入。

血管造影にて吻合部二横指に1.3mm 肘窩深部交通枝末梢に0.8mmの狭窄を認めた。順行性造影にて中枢静脈に狭窄は認めなかった。ヘパリン2000単位フラッシュ。

ガイドワイヤーを挿入、吻合部を越え上腕動脈まで進めた。局所麻酔を狭窄部位周囲に浸潤した。

バルーンを挿入し、肘窩部末梢15気圧にて完全拡張、30秒ホールド。同部位20気圧30秒拡張。

続いて吻合部近傍を18気圧で完全拡張、30秒ホールド。同部位20気圧30秒拡張。

バルーン抜去し逆行性造影施行、肘窩に少量血栓を認め、マッサージにて除去できなかったため

スルーメンカテーテルにて血栓除去、確認造影にて吻合部近傍3.1mm、肘窩末梢2.8mmと拡張。

ガイドワイヤー抜去、スリルは良好に。4-0ナイロン皮膚縫合し、シース抜去、PTA終了。

術後エコー検査にてFVm620ml/m RI 0.52

合併症：無し (有り) シース抜去部血腫

上記のような記録であれば、以下の必要情報を全て満たせます。

☑術者(執刀医)氏名	☑患者の氏名等手術記録を識別できる情報	
☑手術を行った日	☑行った手術の術式	☑病名
☑手術の開始及び終了時刻	☑麻酔法(使用された薬剤の名称及び量を含む)	

## 【不足情報のある手術記録の例】

手術記録			
患者氏名： ○○○ ○○	ID：XXXXXXXX	性別： 男	年齢：XX 歳
病名：透析シャント狭窄	実施日： R× 年 ○月 ×日 □曜日		
開始時間： XX : 30	終了時間： XX : 00	所要時間： 1時間 30分	
術式： 左 ・ (右)	執刀医： ○○○○ 、◇◇◇◇		
経皮的透析シャント拡張術		記録	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">                     腕の状態、手術について                      図示した情報が記載                 </div>		右前腕 RCAVF 右上腕動脈に A-line 留置し血管造影。 シャント造影で 3 か所狭窄あり。 5Fr シースを逆向性に留置し、1.8GW(▲▲▲(製品名)) で吻合部を通過させた。 4mm×Xcm ○○○(製品名) で計 X 回拡張した。 良好な血流を得た。 シャント音・スリル共に良好であった。	

上記の書類では全ての情報を満たしません。

<input type="checkbox"/> 術者(執刀医)氏名	<input checked="" type="checkbox"/> 患者の氏名等手術記録を識別できる情報	
<input checked="" type="checkbox"/> 手術を行った日	<input checked="" type="checkbox"/> 行った手術の術式	<input checked="" type="checkbox"/> 病名
<input checked="" type="checkbox"/> 手術の開始及び終了時刻	<input type="checkbox"/> 麻酔法(使用された薬剤の名称及び量を含む)	

### 《記載の注意事項》

- ・ 執刀医が誰なのかが明確にする必要があります。(執刀医の欄に 2 名医師が記載されています。)
- ・ 麻酔法についての情報が必要です。